



Keio Jean Monnet Workshop for EU Studies

第48回慶應 EU 研究会 第 II 部 EU 研究ワークショップ

「日 EC 貿易摩擦の交渉史 1958 - 78 年」

*The History of Negotiating the Japan-EC Trade Conflict 1958-78*

鈴木 均

Hitoshi Suzuki (Ph.D.)

新潟県立大学国際地域学部専任講師

University of Niigata Prefecture

## 1. 欧州統合史の中の日欧貿易摩擦

### . 既存研究、この発表のアプローチ

- 1. 日本における欧州統合史・欧州国際関係史の記述の中に、日本という国がアクターとして登場するのは稀（遠藤 2008、渡邊 2002）。

- 2. 日 EC・EU 関係について扱った日本語の著書は、貿易摩擦の起きた時期およびその直後に多く、時事問題として扱われてきた（田中 1998、中西・田中・中井・金子 1996、田中・河野・長友 1994、石川 1994）。最もバランスのとれた記述は外交経験者（大平 2007、大平 2002）。事実関係をわかりやすく把握できるが記述は総論的。

貿易摩擦とその解消の歴史が EC・EU の制度的な発展や、EU の対外プレゼンス向上に対してどのように影響したのか、分析がない。

- 3. 欧州諸国における欧州統合史および欧州国際関係史の記述も、日 EC・EU 関係を扱ったものが少ない。 欧州統合史の記述が「グローバル化」する必要。

日 EC 貿易摩擦の交渉と、その（一応の）鎮静化は、EC・EU が成果を挙げることができる交渉アクターであることを内外に示す役割を果たした。

日本にとっての成果は？ 地域ブロックとの交渉をする経験蓄積？

### . 使用した史料

EEC・EC (Historical Archives of the European Union, HAEU) 駐日欧州委員会代表部 (*European Community Newsletter*)、ドイツ連邦共和国政府 (Bundesarchiv, BA) 外務省『経済と外交』、通産省『通商白書』、同『通産ジャーナル』、経団連『経団連月報』。



## 2. 1960年代 70年代、対日脅威認識の形成、共通通商政策の誕生、摩擦の激化

### . 理事会（閣僚理事会）・加盟国政府における対日圧力

= 議長国による、アジェンダ設定・交渉合意内容に対する影響力行使。  
= 特に 1975 年～77 年の日 EC 貿易摩擦表面化。「集中豪雨的な輸出」をやめるよう、理事会決議（のための動議）によって日本に強い圧力をかける EC 加盟国政府。

英・仏・伊 = 対日強硬。

独 = 対日理解。

欧州委員会 = EC の対日輸出拡大による貿易収支不均衡の是正を一貫して主張。

= 欧州企業の努力不足を批判。

サミットの場合は、日本叩きを一切出さなかった EC 加盟国。日本を懐柔？

・・・対日通商交渉は、1970 年以降（理事会承認の下）欧州委員会が一括して行った。

### . 共通通商政策をめぐる欧州委員会内の国際分業と、対日交渉

= DG I（対外関係局）による対日交渉 政府首脳・外務省・通産省・経団連。

= 副委員長（労組出身者）ヴィルヘルム・ハーファーカンプによる対日説得

= 「日本の輸出によって欧州の失業者が急増」「既に経済問題ではなく政治問題（世論の悪化を強調。日本製品ボイコットを示唆？）」等。・・・議論のすり替えに近いロジックで、加盟国政府が多用していた。

### . 交渉の結果生じた変化

経団連傘下の日本企業は、EC での現地生産を議論し始める。通産省も追認。

日本市場の非関税障壁撤廃を合意。欧州企業の対日輸出を通産省と経団連が支援。

1976 年～77 年をピークに、摩擦は鎮静化に向かった。・・・80 年代に再燃。

## 3. 結 論

無理のある理論で対日交渉に臨んだ欧州委員会。G6・G7 サミットでは日本叩きを慎みつつも、通商面では強く圧力をかける EC 加盟国。日本に「外交イニシアティブを発揮する機会」をサミットで提供しつつ、他方で通商交渉を優位に決着させた欧州。アクターとしてのプレゼンスを向上した EC。日本にとって欧州の利用価値とは？

### **参考文献**

石川謙次郎（1994）『ヨーロッパ統合への道』NHK ブックス

植田隆子編（2007）『EUスタディーズI 対外関係』勁草書房

大平和之（2007）「日本 = EU 通商・経済関係 摩擦から対話・協力そして未来志向の協力へ」植田隆子編『EUスタディーズI 対外関係』勁草書房



- 大平和之 (2002) 「日本 EU 通商・経済関係」 植田隆子編 『二十一世紀の欧州とアジア』 勁草書房
- 遠藤乾編 (2008) 『ヨーロッパ統合史』 名古屋大学出版会
- 木畑洋一編 (2005) 『ヨーロッパ統合と国際関係』 日本経済評論社
- 鈴木一人 (2009) 「新たな帝国システムの誕生 規制帝国の支配」 『創文』 第 5 1 7 号、1 4 1 8 頁
- 鈴木均 (2009) 「戦後合意として機能した欧州統合 シューマン・プランが欧州レベルの労使協調「体制」を生み出した、という仮説」 『創文』 第 5 2 0 号、18-22 頁
- 鈴木均 (2006) 「欧州横断ネットワークの先駆 欧州統合初期において労働組合が開いた可能性と限界」 『現代史研究』 第 5 2 号、1-12 頁
- 鈴木均 (2005) 「初の「欧州アクター」だったのか? ドイツ労働総同盟 (DGB) の欧州統合理念および欧州石炭鉄鋼共同体への参画過程」 田中俊郎、庄司克宏編 『EU と市民』 慶應義塾大学出版会
- 田中俊郎 (1998) 『EU の政治』 岩波書店
- 田中俊郎、小久保康之、鶴岡路人 (2007) 『EU の国際政治』 慶應義塾大学出版会
- 田中友義、河野誠之、長友貴樹 (1994) 『ゼミナール・欧州統合』 有斐閣
- 中西輝政、田中俊郎、中井康朗、金子讓 (1996) 『なぜヨーロッパと手を結ぶのか』 三田出版会
- 廣田功編 (2009) 『欧州統合の半世紀と東アジア共同体』 日本経済評論社
- 渡邊啓貴編 (2002) 『ヨーロッパ国際関係史』 有斐閣
- JETRO (1978) 『EC 経済記者団が見た新ニッポン事情』 朝日ソノラマ
- Bretherton, Charlotte, and John Vogler (1999), *The European Union as a Global Actor*, Routledge.
- Gilson, Julie (2000), *Japan and the European Union: A Partnership for the Twenty-First Century?*, Macmillan Press.
- Rogers, James (2009), "From 'Civilian Power' to 'Global Power': Explaining the European Union's 'Grand Strategy' Through the Articulation of Discourse Theory," *Journal of Common Market Studies*, Vol.47, Issue 4, pp.831-862.
- Suzuki, Hitoshi (2010a), "How trade conflicts against Japan promoted Europeans to launch and continue the Summits," paper presented at the International Conference, *The Art of Chairing the G8 Summits: Lessons from the Past and Recent Trends of Multi-lateral Diplomacy*, 16 July, Tokyo.
- Suzuki, Hitoshi (2010b), "How the EU Emerged as a Global Actor by Solving the Trade War against Japan: A Historical and Japanese Perspective," paper presented at the EUSA Asia-Pacific Conference, *Connections and Dialogue: The European Union and the Asia Pacific Perspectives, Perceptions and Policies*, 8 January, New Delhi.
- Suzuki, Hitoshi (2009), "From Trade War Conflicts to Global Partners: A Japanese Perspective of the EU's Role and Presence," paper presented at the Global Conference of the Monash European and EU Centre, *The External Relations of the European Union: Historical and Contemporary Perspectives*, 24 September, Melbourne.
- Ueta, Takako, and Éric Remacle (2005), *Japan and Enlarged Europe: Partners in Global Governance*, P.I.E.-Peter Lang.